

## 第12回日本小児理学療法学会学術大会開催のご案内

平素より本学会の活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

第12回日本小児理学療法学会学術大会は、12月20日（土）・21日（日）に愛知淑徳大学（星が丘キャンパス）にて開催いたします。

現在、参加登録を受け付けております。

皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

◇ 参加登録ページ: 参加締切 12月18日（木）

<https://jsppt-12th.org/registration/>

◇ 参加費

参加登録時の会員区分に基づき参加費が決定されます。登録後に会員区分が変更された場合でも、差額の返金は行いません。

◇ 講義番号

272673

◇ 開催期間

2025年12月20日（土）～2025年12月21日（日）

◇ 会場名

愛知淑徳大学 星が丘キャンパス

◇ 開催区分

対面のみ

◇ 生涯学習ポイント

登録理学療法士 更新

61 個人因子と環境因子 14 ポイント

認定/専門理学療法士 更新

学術大会 14 点

◇ テーマおよび概要

1990年のII STEP会議以降、世界の小児理学療法は運動制御や家族中心アプローチに基づき、子ども主体の支援へと変化してきました。日本でもその流れが広がりつつありますが、依然としてセラピスト中心の支援が多いと感じます。

本学会では、子どもと家族が主体的に自分たちで問題解決することを援助するサービスへの転換を目指します。家族中心アプローチやF-words、CO-OPアプローチ、作業遂行コーチング、COPM、GASなどの活用を通して、子どもと家族の生活に寄り添った支援を学びます。

子どもの「やりたい」と一緒に実現するために、子どもの能力向上だけでなく課題や環境に取り組み、子どもの成功体験を増やし褒める機会が増えることで、セラピーはより楽しいものになります。本学会がその一歩となることを願っています。

### 【学術大会長基調講演】

子どもとご家族の生活と希望に基づいた成果の出せる楽しい小児理学療法サービス —子どもとご家族が主体となるサービス—

### 【特別講演】

OPC (Occupational Performance Coaching) の紹介

### 【教育講演】

- ・ CO-OP アプローチ
- ・ 家族の思いを評価する Measure of Processes of Care (MPOC)
- ・ 神経発達症の特性への理解と支援—自閉スペクトラムを中心に—
- ・ 学校保健における理学療法士の役割

### 【シンポジウム】

子どもと家族の生活を知り、子どもとご家族と一緒に目標設定しよう

### 【市民公開講座】

カナダ (CanChild) 発：家族と共につくるこども支援の新しいかたち —「できる」から広がることどもと家族の未来—

[https://x.com/jsppt\\_cong/status/1994643464248783166?s=20](https://x.com/jsppt_cong/status/1994643464248783166?s=20)

### 【ワークショップ】応募締切 12月12日（金）

[https://x.com/jsppt\\_cong/status/1992064897644105868?s=20](https://x.com/jsppt_cong/status/1992064897644105868?s=20)

◇ 学術大会 HP

<https://jsppt-12th.org>

◇ お問い合わせ

<https://jsppt-12th.org/contact/>

子どもとご家族の生活と希望に基づいた  
成果の出せる楽しい小児理学療法  
—子どもとご家族が主体となるサービス—



2025

# 第12回 日本小児理学療法学会 学術大会 in 愛知

開催日

2025.12.20(土)・21(日)



大会 HP はこちら

開催方法

対面（オンデマンド配信あり）  
市民公開講座のみハイブリッド開催

会場

愛知淑徳大学 星が丘キャンパス

大会長

藪中 良彦

(大阪保健医療大学)

主催：日本小児理学療法学会  
Web サイトは[こちらより](#)



愛知淑徳大学  
Web サイトは[こちらより](#)



第60回  
日本理学療法学術大会



## 第12回 日本小児理学療法学会学術大会 in 愛知 市民公開講座（無料・オンライン開催）

ご自宅で  
視聴できます

2025年 12月 21日（日）9:00 – 11:30

力ナダ発：家族と一緒につくるこども支援の新しいかたち  
「できる」から広がる こどもと家族の未来

講師：CanChild スタッフ、当事者、家族

障がいのある子どもや若者が、周りの人と一緒に活動を楽しみ、力を発揮できることを大切にする支援の考え方「F-words」などをご紹介します。

F-words は、家族・楽しさ・友だち・できる活動・身体の元気さ・将来の6つの視点から、子どもの「できること」に光を当てる枠組みです。

本講演では、子どもの「できる」に注目する理由、家族と専門職が協力するための 支援方法、実際の家族の体験をわかりやすくお伝えします。

ご家族様、ご当事者様、そして療育支援や教育にかかる  
皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます

【オンライン配信・事前登録制】  
QRコードまたはURLより登録ください。  
URL: <https://jsppt-12th.org/citizen/>

【お問い合わせ】  
事務局：株式会社 DIO AGENCY  
TEL: 052-784-4220  
E-mail: [jsppt-12th@jsppt-12th.org](mailto:jsppt-12th@jsppt-12th.org)



登録はこちら

## 【講演内容】

障害のある子どもや若者も、日常の生活の中でさまざまな活動に参加し、成長する機会が大切です。

CanChild の研究は、「できないこと」ではなく「できること」に目を向けることで、家族と専門職が協力して、前向きにより良い支援ができる事を示してきました。  
その考え方を分かりやすくまとめたのが F-words(家族・楽しさ・友だち・できる活動・身体の元気さ・将来) です。

WHO の ICF を、家庭や現場で使いやすい形に落とし込んだもので、世界中で子どもや家族の支援の道しるべとして活用されています。

また CanChild では、家族と一緒に使えるツール(活用できる道具)も開発してきました。  
「About My Child」は、子どもの強みと必要な支援を整理できるツール、  
「ENVISAGE」は、親同士がつながり、前向きな視点や自信を育むプログラムです。

これらに共通する中心的な考え方は “家族と専門職のパートナーシップ” です。子どもと家族にとって意味のある目標と一緒に考え、子どもが力を発揮できる環境を共につくることを大切にしています。

本講演では、F-words の考え方や研究で分かってきたこと、家族の体験を紹介します。「できること」に目を向け、協力しながら支援することで、すべての子どもがいろいろな活動を楽しみ安心して過ごせるコミュニティ(地域社会)を育むことができます。

## 【CanChild について】

CanChild はカナダのマクマスター大学にある、子どもと家族のための研究センターです。35年以上にわたり、家族と協力しながら、日常で使いやすいツールや科学的根拠に基づく情報を発信してきました。

研究者・臨床家・家族・地域が協力し、世界中と連携しながら、子どもと家族への支援をより良くする取り組みを続けています。